



2026年9月開催 個人投資家向け会社説明会

株式会社C R I ・ ミドルウェア

< 東証スタンダード市場／証券コード：**3698** >

2026年 9月 24日

© CRI Middleware Co., Ltd.

本日の説明概要



1. 会社紹介
2. 業績動向
3. 中期経営計画
4. 株主還元方針

1. 会社紹介

①何をしている会社？



**私たちは、
音と映像に関する技術者集団、
(株)CRI・ミドルウェア です**



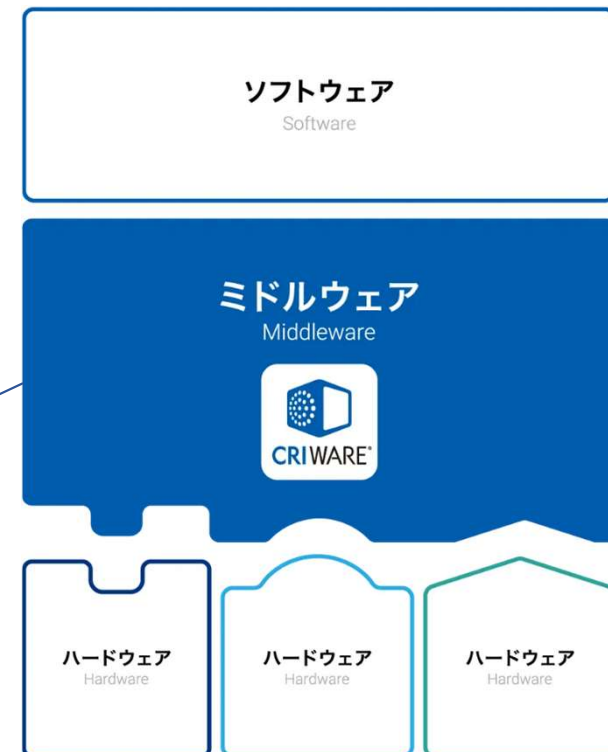
音と映像に関する研究開発の技術成果を「ミドルウェア」という製品にして世の中に提供しています。

②ミドルウェアとは？

ミドルウェアは、異なるソフトウェアやシステム同士がスムーズにやり取りするための“仲介役”のソフトウェアです。

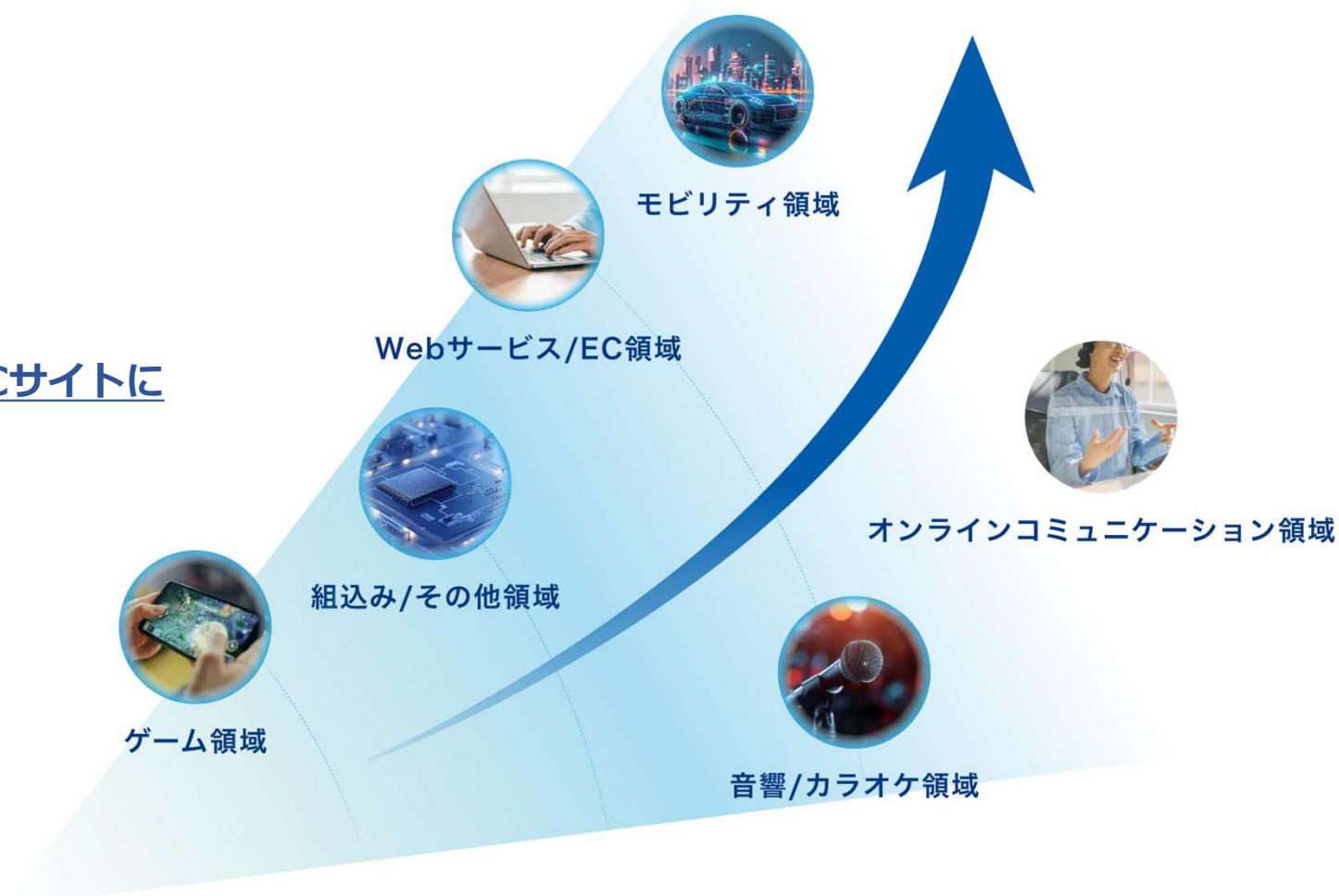
ソフトウェアとハードウェアの間に
入り込み、両者の連携や通信を助け
ます。

ハードウェアの違いを吸収し、どの
ハードウェア上でも、同じソフトウ
ェアが動くようにするための役割を
担っています。



③こんなところにもC R I

- カラオケに
- 組込み機器に
- 玩具に
- 映画の立体音響に
- アパレルなどのECサイトに



④ 生い立ち

CSK総合研究所時代

1983年

CSK総合研究所として設立

人工知能や音声・映像技術、CD-ROMメディアの研究開発を行う。

1996年～2000年

家庭用ゲーム機「セガサターン™」、
「Dreamcast®」向けにミドルウェアを提供

CRI・ミドルウェア時代

2001年

CRI・ミドルウェアを設立

CSK、セガグループから独立。家庭用ゲーム機「PlayStation®2」「NINTENDO GAME CUBE®」「Xbox®」向けミドルウェアを提供開始

2014年

東京証券取引所マ
ザーズ(現グロース)
市場に上場

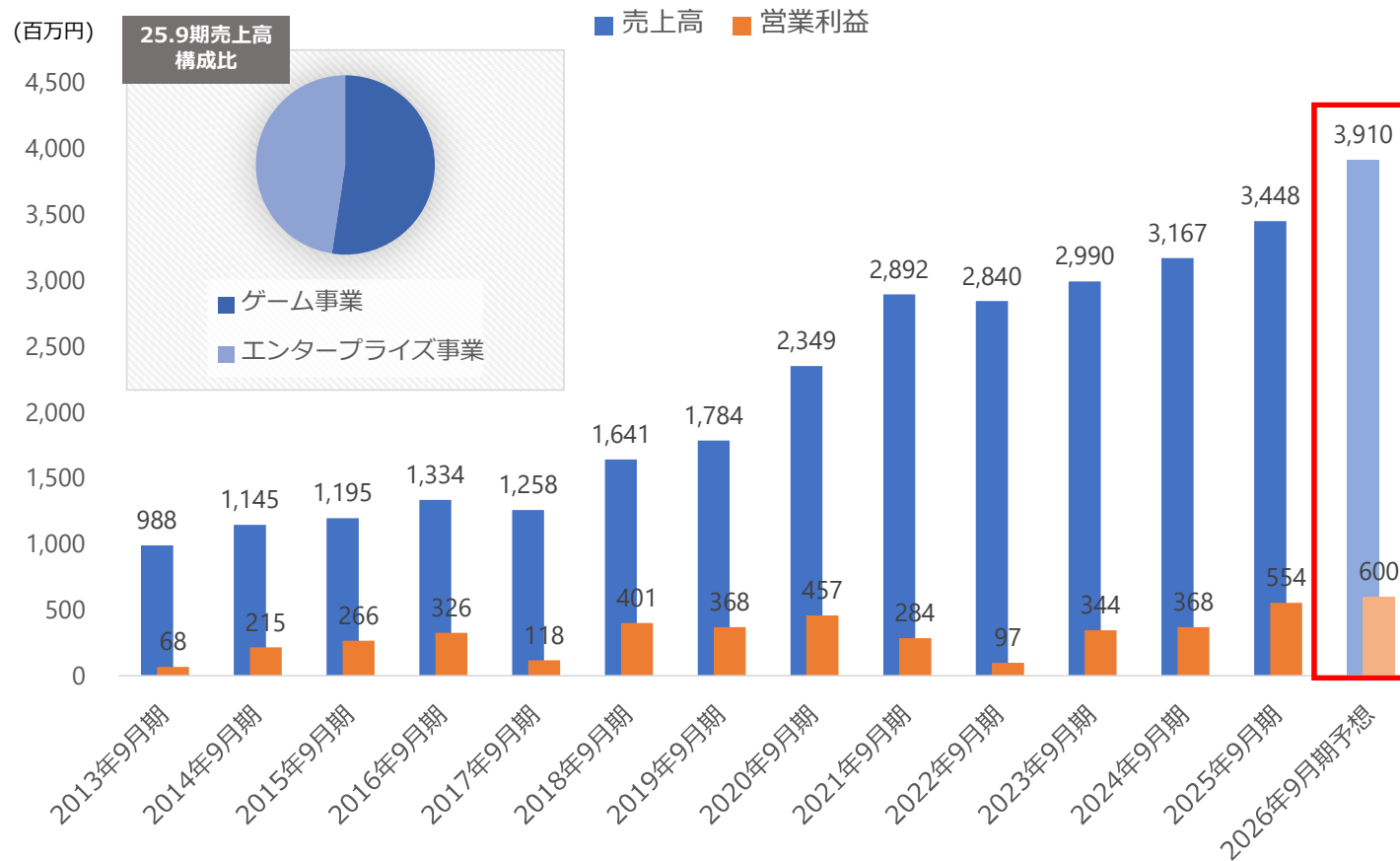
現在に至る

2026年

東京証券取引所ス
タート市場に市場
区分変更

2. 業績動向

業績推移



3Q累計決算概要（連結）



3Q時点で概ね予定どおりの進捗。

なお、売上高および営業利益が前年同期比で減少している主因は、前年はカラオケの新機種発売に伴う特需があったため。

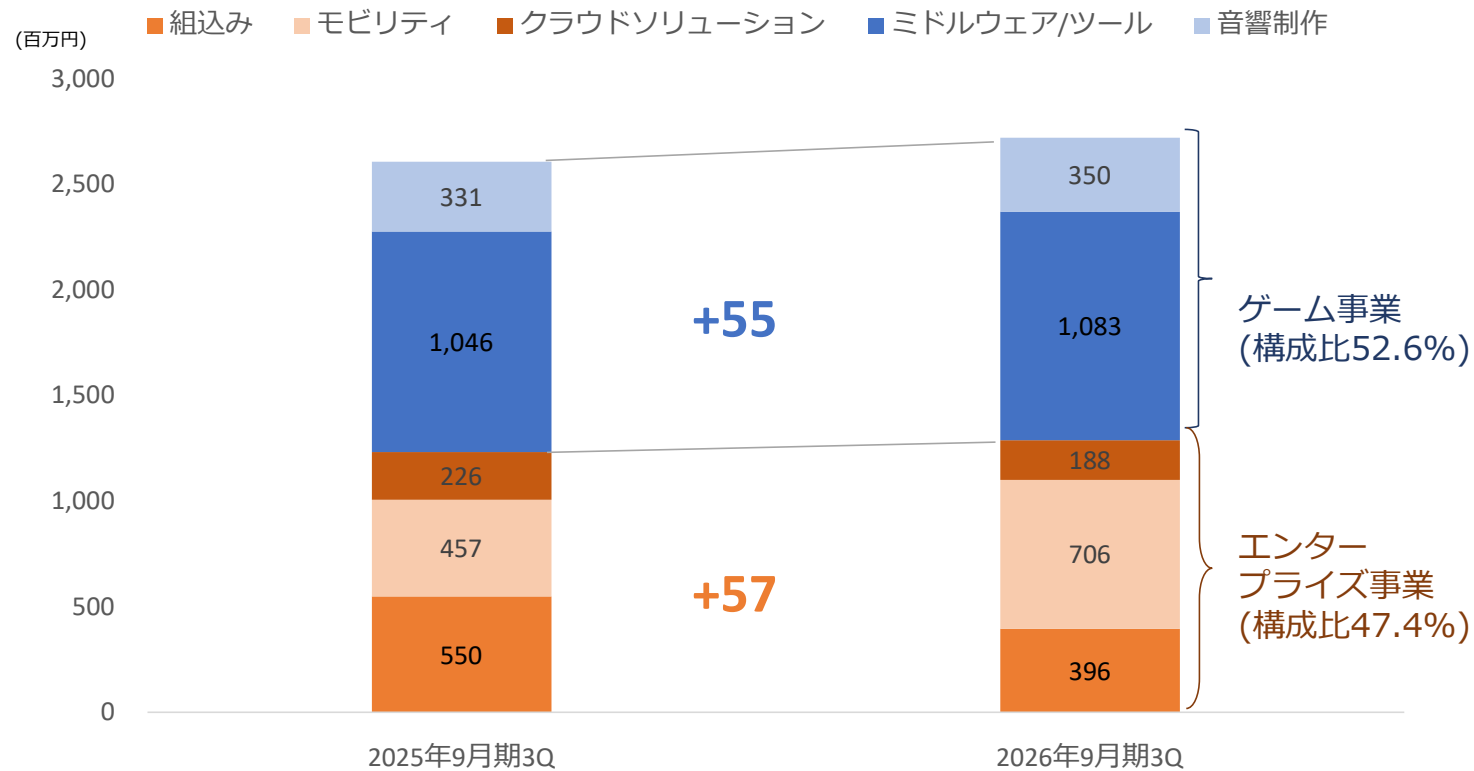
（単位：百万円）

	当期実績 2026年9月期3Q	前年同期実績 2025年9月期3Q	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	通期公表予想 2026年9月期	通期公表予想 進捗率
売上高	2,724	2,611	+ 112	+ 4.3%	3,910	69.7%
売上原価	993	1,019	△ 26	△ 2.6%		
売上総利益	1,731	1,592	+ 139	+ 8.8%		
(売上総利益率)	63.6%	61.0%	+ 2.6pt	—		
販売費及び一般管理費	1,336	1,124	+ 212	+ 18.9%		
営業利益	394	467	△ 72	△ 15.6%	600	65.8%
(営業利益率)	14.5%	17.9%	△ 3.4pt	—	15.3%	—
経常利益	425	476	△ 51	△ 10.7%	616	69.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	293	327	△ 34	△ 10.4%	462	63.5%
従業員数（人）	185	175				

3Q累計セグメント別業績（分野別売上高推移）



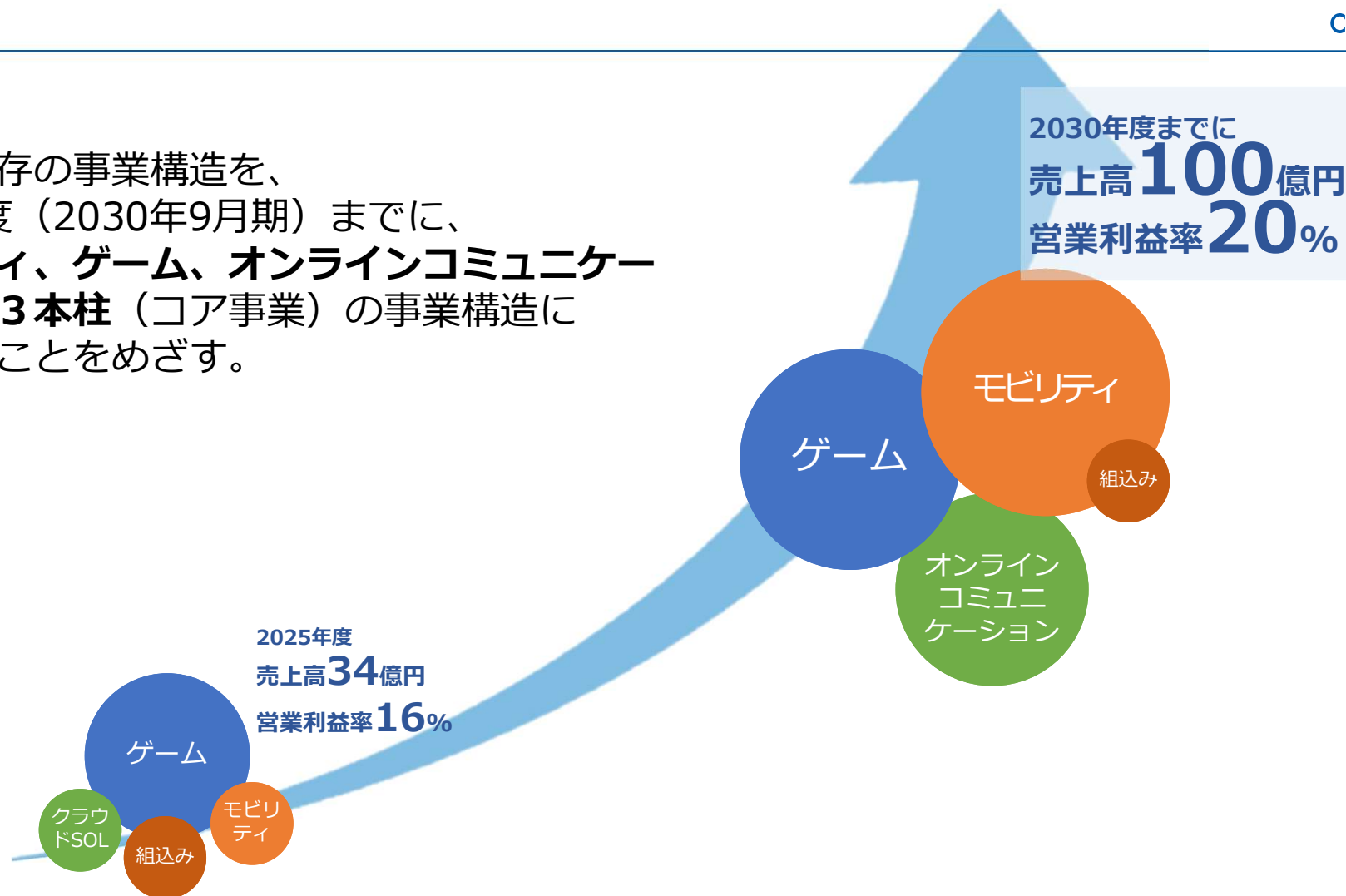
- ・ ゲーム事業は、国内一括許諾契約の獲得に加え、音響制作も好調に推移し増収。
- ・ エンタープライズ事業は、モビリティが業績を牽引し増収。



3. 中期経営計画(2026-2030)

3. 中期経営計画 ～めざす姿～

ゲーム依存の事業構造を、
2030年度（2030年9月期）までに、
モビリティ、ゲーム、オンラインコミュニケーションの3本柱（コア事業）の事業構造に
変革することをめざす。



3. 中期経営計画 ～主要経営指標～

売上高
100億円

25.9期
34億円

許諾売上高比率*

60~70%

25.9期
66%

* M&A分を除外して算出。

営業利益率
20%

25.9期
16%

ROE
15%以上

25.9期
11%

本日説明する内容

将来の中核事業は以下の3事業です。

(詳細はP36記載のQRコードまたはURLよりご確認ください。本日は説明を割愛します。)

I.モビリティ(自動車/バイク向け)事業

主力2製品の採用台数拡大、1台当たりから得られる収入の増加

本日はここを掘り下げて説明します。

II.ゲーム事業

CRIの祖業となるミドルウェアの許諾事業

III.オンラインコミュニケーション事業

ネットワークを介した音声・映像コミュニケーションの新事業

自動車/バイク向けの音声・映像製品



CRIが着手した自動車/バイク向けの
音声・映像ミドルウェアの適用先は…



運転席周りの 「音」と「メーターパネル」

(ウィンカー音や警告音、液晶表示のスピードメーターなど)

なぜC R I が自動車業界へ？

結論

①現代の組み込みシステム：ハードからソフトへ移行の流れ

- 1 音声IC（ハードウェア）からソフトウェアへの移行
- 2 車載メーターのアナログからデジタルへの移行

②今、自動車業界は100年に一度と言われる変革期

Connected (コネクテッド)



SDVの流れ、
売り切り型からアップデート型へ

Autonomous (自動運転)



ドライバーは運転から解放
→車内体験をいかに豊かにするか

なぜCRIが自動車業界へ？

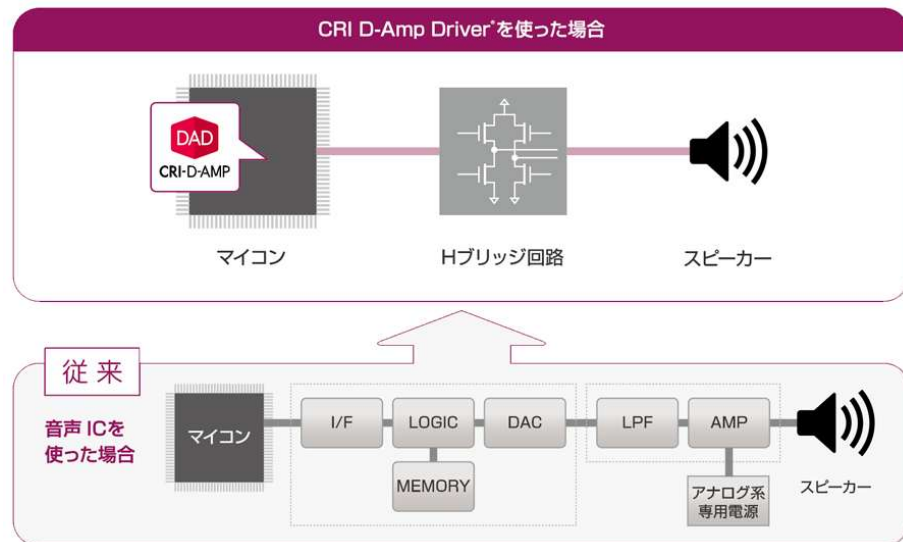
理由①-1

現代の組み込みシステム：ハードからソフトへ移行の流れ
⇒ 音声IC（ハードウェア）からソフトウェアへの移行

メリット

- ①柔軟性の向上
- ②部品点数の削減
→小型化、調達リスク減
- ③コスト削減

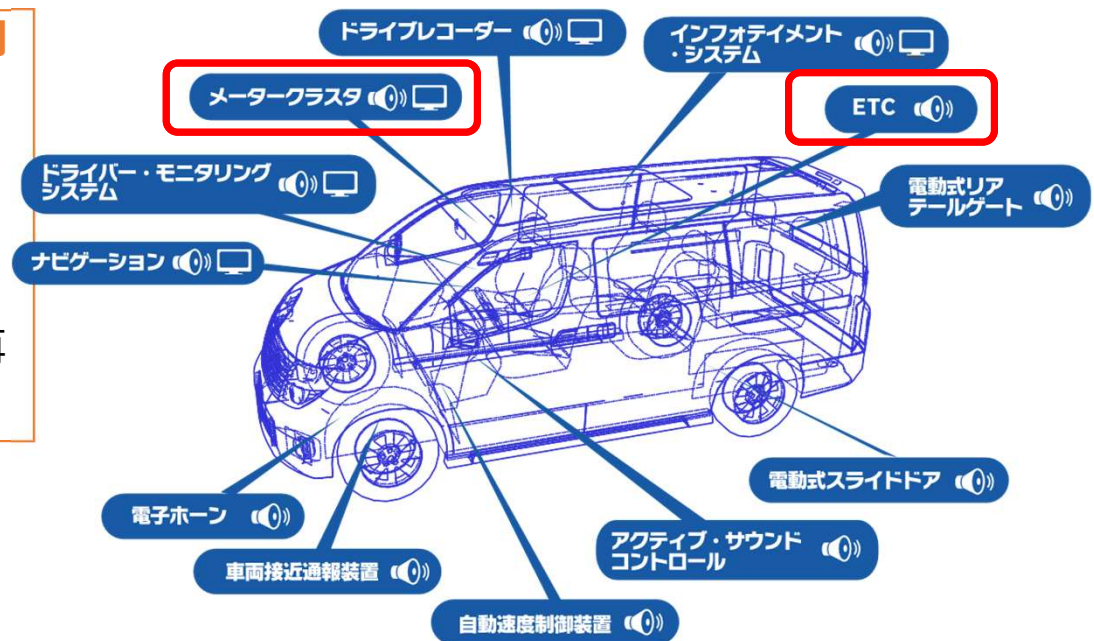
(例)



①-1.音声製品 ~ADXAT~

CRI ADX Automotive(略称 : ADXAT) 車載音声ソリューション

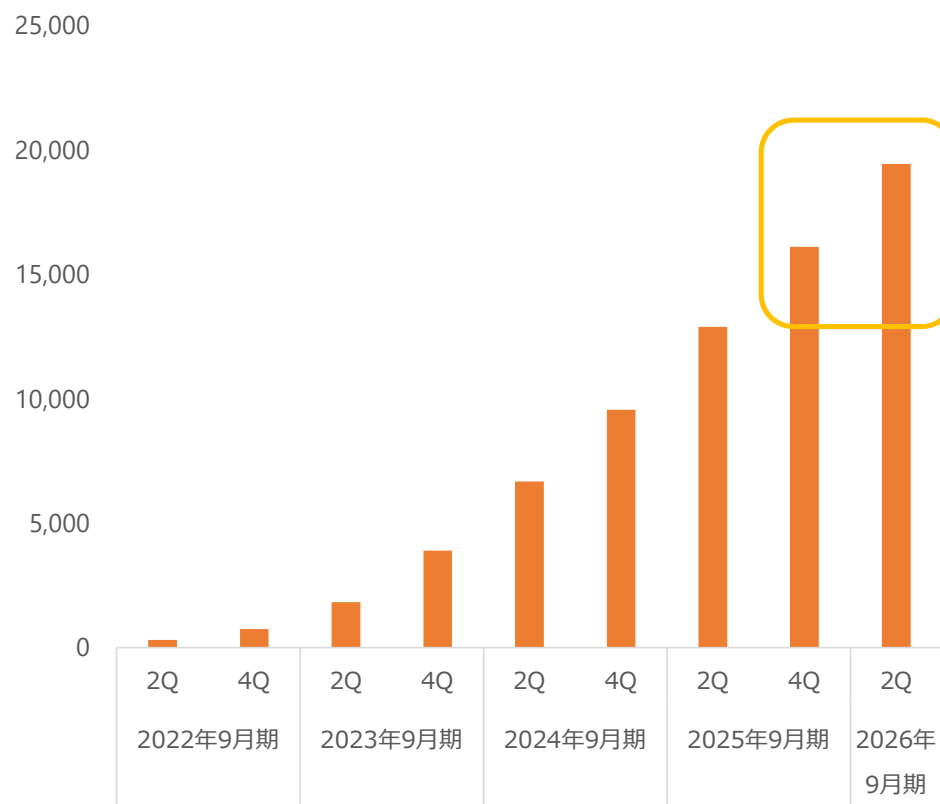
- ・ 情報提示音（ウinkerやリバーズ使用時の音）やETC音声など車室内外のさまざまな音を制御。
- ・ 現状はほぼ**メータークラスタ**での実績。
- ・ コスト/部品点数/実装面積/電力消費を大幅に削減。音質も損なわれず大音量再生が可能。



①-1.音声製品 ～ADXAT実績～

(単位:千台)

■ ADXATライセンス数(累計)



直近1年間で
約650万台に採用

CRIWARE採用

1,945万

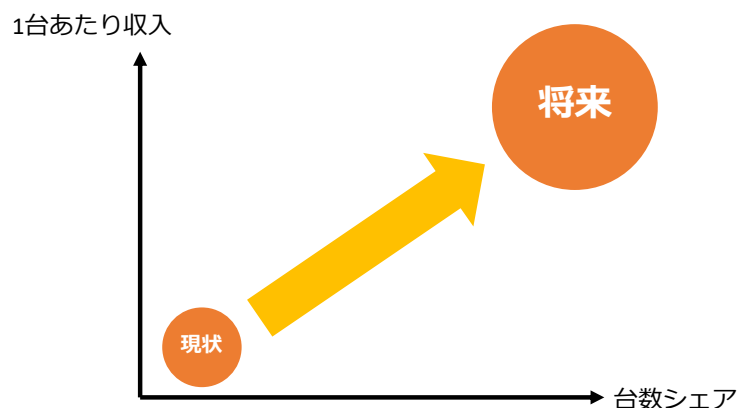
ライセンス

(2026年3月集計)

①-1.音声製品 ～成長戦略～

音声製品の成長戦略

- ・ ADXATは、日系メーカーだけでなく、海外メーカーとも関係を構築し、2030年までに**四輪車の世界生産台数*の20%強（2000万台）**への採用をめざす。（年間採用台数3倍強目標）
- ・ 現在メータークラスタ中心に進めている機能展開先を、今後は車両接近通報装置やETCなど他の機能へ拡げることや、カーオーディオや統合コックピットへの採用を推進することで、**車両1台あたりから得られる収入増**を目論む。（台あたり収入1.5倍増目標）



* 9043万台は2023年の世界の四輪車生産台数 (出典:マークラインズ)

② C R I の取り組み ～DSP Concepts～



■ グローバル市場への展開を加速（2026/5/12発表）

DSP Conceptsとパートナーシップを締結。

- ✓ 世界中の自動車メーカーで利用されるオーディオ開発プラットフォーム「Audio Weaver」を提供するDSP Conceptsとパートナーシップを締結。
- ✓ 今回の連携により、当社サウンド製品が「Audio Weaver」内のモジュールとして利用可能となり、世界各国のモビリティ・音響製品向け開発における採用機会の拡大が期待される。



DSP
Concepts



なぜC R I が自動車業界へ？

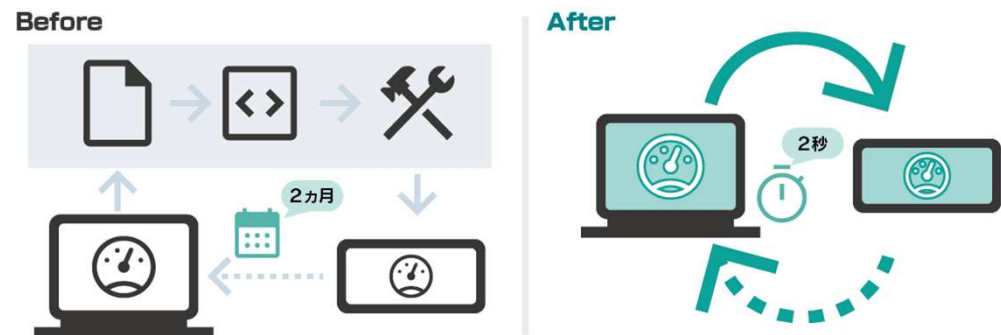
理由①-2

現代の組み込みシステム：ハードからソフトへ移行の流れ
⇒ 車載メーターのアナログからデジタルへの移行

メリット

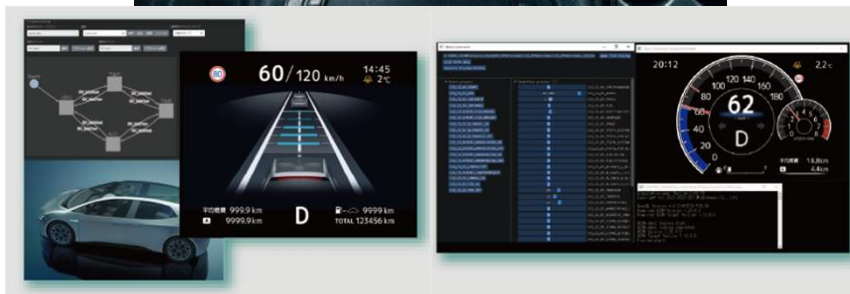
- ①情報量の多さ
- ②視認性の向上
- ③デザインの自由度

手戻りが少ないうえに、検証サイクルが劇的に短縮化



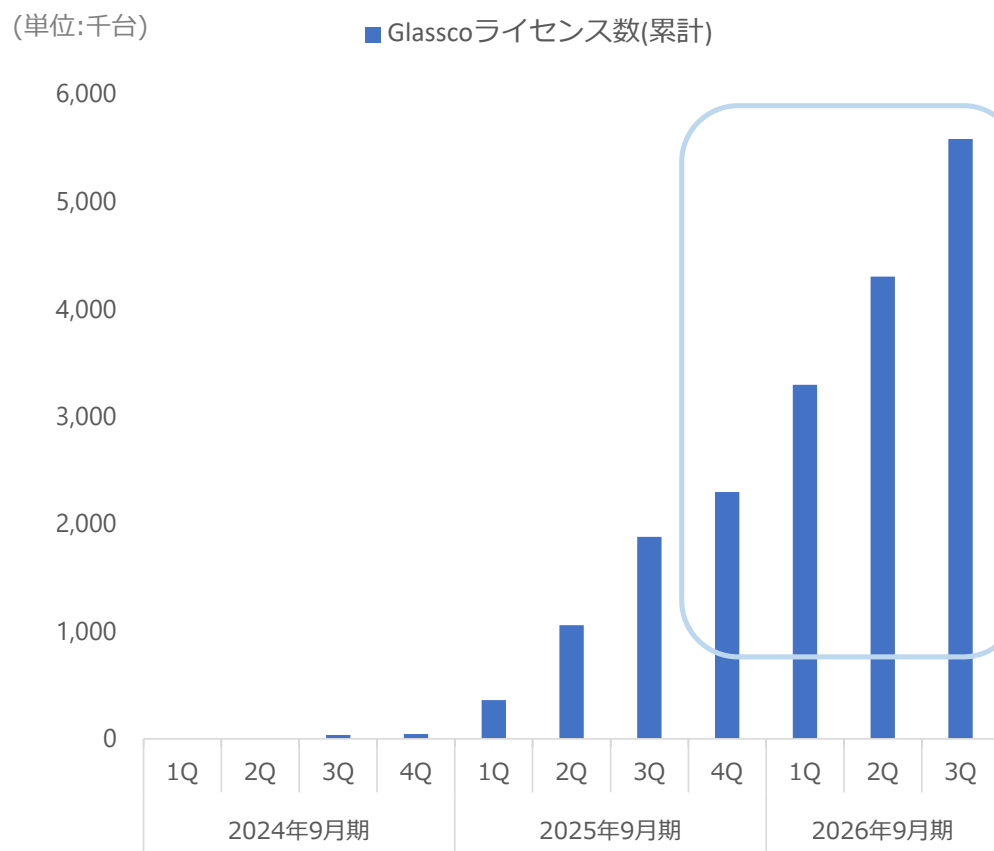
①-2. グラフィック製品 ~Glassco~

CRI Glassco(略称 : Glassco) 車載メーターグラフィックソリューション



- **車載メーターのデザイン制作から実装**までを簡単に行うことができる車載メーターグラフィックソリューション。
- 従来行われていた自動車メーカーと部品メーカーとのデザイン確認から修正までの工数を大幅削減。
- 対象市場は**四輪車**にとどまらず、**二輪車**市場も。1st事例は二輪車から導入開始。

①-2.グラフィック製品 ～Glassco実績～



直近1年間で
約370万台に採用

CRIWARE採用

558万

ライセンス

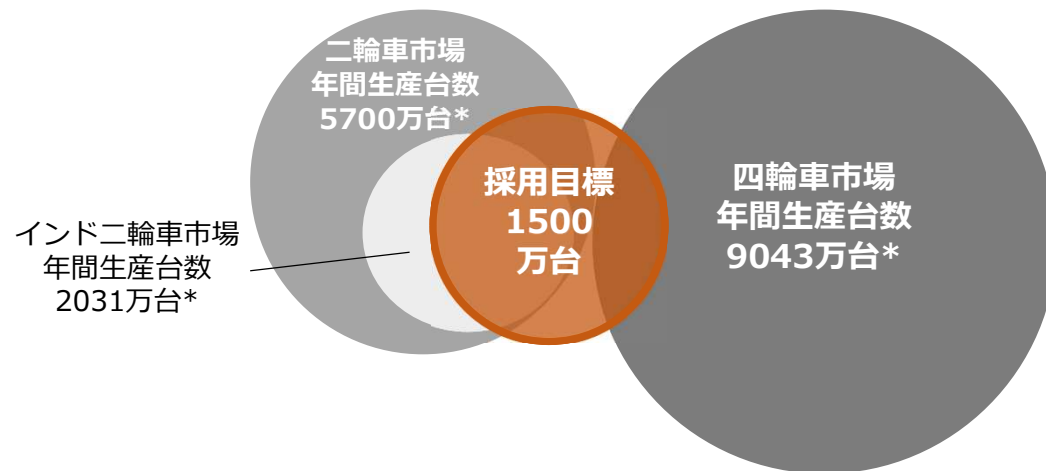
(2026年6月集計)

①-2. グラフィック製品 ～成長戦略～

グラフィック製品の成長戦略

Glasscoは、ADXATで構築してきたTier1との関係を糸口に、メーターグラフィック分野へ進出。

低スペックなマイコンでも高品質なグラフィック提供ができる強みを活かし、まずは**二輪車市場**を中心に展開。2030年までに、**二輪車・四輪車の世界生産台数*の10%（1500万台）**への採用をめざす。特に、世界最大の二輪車市場である**インド二輪車市場で1000万台**（市場シェア約50%）の採用を目論む。



* 9043万台は2023年の世界の四輪車生産台数、5700万台は2023年の世界主要国の二輪車生産台数、2031万台は2023年のインドの二輪車生産台数 (出典: マークライnz)

①-2. グラフィック製品 ～注力市場への取り組み～

萩原エレクトロニクスと協業し インドの二輪市場へ展開を開始 (2025/4/24発表)

「CRI Glassco」、萩原エレクトロニクスと協業し、世界最大の二輪市場へ展開を開始。

✓ 萩原エレクトロニクスのインド海外子会社と連携し、現地でのサポート体制を構築。

✓ ノーコード開発による開発コスト削減で、インド向け市場への普及拡大。



NEWS RELEASE

2025年4月24日
株式会社CRI・ミドルウェア
(コード番号: 3098 東証グロース)

**CRI、萩原エレクトロニクスとの協業により
インドの二輪車市場向け展開を開始**
～ノーコード開発のデジタルメーターが世界最大の成長市場を牽引～

株式会社CRI・ミドルウェア（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：押見 正雄、以下「CRI」）は、萩原エレクトロニクス株式会社（本社：名古屋市東区、代表取締役社長執行役員：藤島 剛、以下「萩原エレクトロニクス」）との協業により、車両向けデジタルメーター映像ソリューション「CRI Glassco®」をインド市場に向け展開開始いたします。ノーコードで簡単にデジタルメーターの開発が可能なCRI Glasscoが、世界最大のバイク市場であるインドのメーターを彩ります。

HAgiWARA × **CRIWARE**

Glassco **RH850 実機**

ノーコード開発で
高額な開発環境が不要に

electronica India 2025に出展 (2025/9/17~9/19)

日時 2025年9月17日(水)~2025年9月19日(金)
場所 インド・ベンガルール
Bangalore International Exhibition Centre (BIEC)

✓ 世界のトップメーカーの最新技術と製品が勢揃いする業界屈指のリーディングメッセ「electronica」のインド版。注目度の高い南西アジア最大級の業界専門展示会。

✓ 電子部品・製造機器・光技術からパワーエレクトロニクス、セミコンダクター、電子基盤・回路関連分野まで、エレクトロニクスの全てを網羅するポータルを提供。



なぜC R I が自動車業界へ？

理由②

今、自動車業界は100年に一度と言われる変革期

Conconnected (コネクテッド)



SDVの流れ、
売り切り型からアップデート型へ

Autonomous (自動運転)



ドライバーは運転から解放
→車内体験をいかに豊かにするか

Shared & Services (シェアリング)

Electric (電動化)

C R I はこの2軸で自動車業界から期待。
ゲーム業界で培った経験や斬新な発想を
提案。

②昨今の自動車業界における潮流 ～SDVについて～

SDVとは

Software Defined Vehicle

ソフトウェアで定義される車

イーロンマスク氏の**テスラ**から始まった**新潮流**



自動車のスマホ化

②昨今の自動車業界における潮流 ～SDVについて～

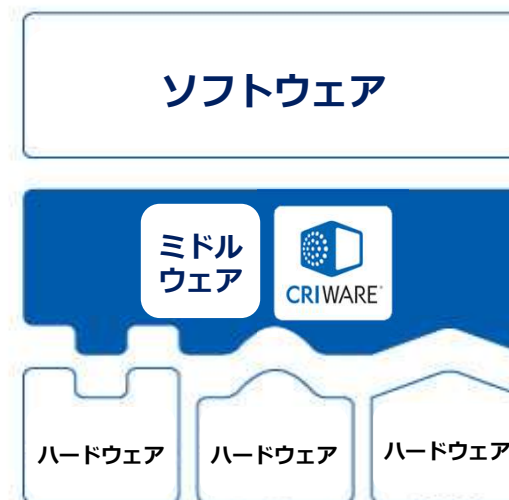
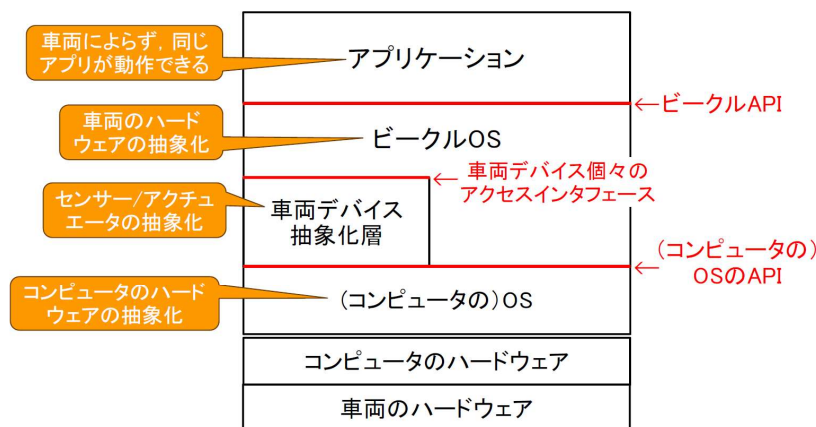
SDVの考え方とミドルウェアの好相性

ハードを抽象化するAPI ≡ CRIのミドルウェア

Open SDV Initiative

ビークルOS, ビークルAPIの位置付け

- ▶ ビークルOSは、いわゆるOS (コンピュータのOS) とは異なるもの



- 30以上のプラットフォームをサポート

② C R I のSDVへの取り組み ～Open SDV Initiative～



■ モビリティ新規展開（2024/8/7発表）

SDVのAPI策定をめざす「**Open SDV Initiative**」に参画。

- ✓ 「Open SDV Initiative」は、自動車のソフトウェアとハードウェアをつなぐ「ビークル API」の国内標準化を目指して設立されたプロジェクト。
- ✓ 名古屋大学大学院情報学研究科教授で、経産省・国交省モビリティDX検討会の座長も務める高田広章氏と意見交換を実施。当社技術と知見でSDV領域に貢献できると考え、参画を決定。

Press Release



名古屋大学
NAGOYA UNIVERSITY

2024年6月20日

報道機関 各位

自動車の未来を支える API 策定プロジェクト －「Open SDV Initiative」設立－

名古屋大学は、この度、ソフトウェア・デファインド・ビークル（SDV）に関心のあ
る企業に参加を呼びかけ、「Open SDV Initiative」^{注1)}を設立し、SDVに重要となるビ
ークル API の策定活動を開始します。

ソフトウェアの追加・更新により販売後にも機能を拡張・変更できる SDV が注目を
集めていますが、日系自動車メーカーのこの分野での立ち遅れも指摘されています。経済
産業省と国土交通省が本年5月に公表した「モビリティ DX 戦略^{注2)}」では、SDV 化が
加速する中で、SDV においても、日系メーカーによる世界シェア3割達成を目標として
掲げています。また、この目標を達成する戦略の1つとして、SDV に搭載するアプリ
ケーションが用いるビークル API の標準化の重要性が指摘されています。

Open SDV Initiative

名古屋大学 オンライン記者会見

自動車の未来を支えるAPI策定プロジェクト －「Open SDV Initiative」設立－

2024年6月20日

高田 広章

名古屋大学 大学院情報学研究科 教授
附属組込みシステム研究センター長

名古屋大学 未来社会創造機構 モビリティ社会研究所 所長・教授
Email: hiro@ertl.jp URL: <http://www.ertl.jp/~hiro/>

Hiroaki Takada

1

② C R I のSDVへの取り組み ～MESH（メッシュ）～

■ モビリティ新規展開（2025/9/25発表）

名大発のプロジェクト「Open SDV Initiative」が提唱するSDV体験のシミュレーション環境「**MESH**」の開発に参画。

- ✓ MESHは、ソフトウェアによって機能や価値が更新される自動車「SDV」が創造する、未来の移動体験を実感できるシミュレーション環境。
- ✓ MESH開発において、当社は開発者の多様なアイデアを体験できるシナリオやシナリオ全体のコントロール機能開発、解説やステップの表示機器制御、機器間連携のためのネットワーク構築などを担当。



② C R I のSDVへの取り組み ～多数の講演実績～

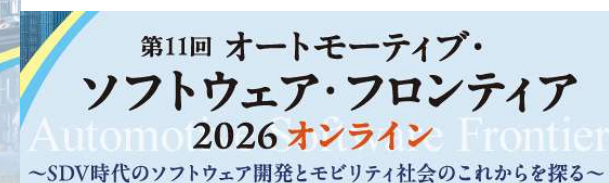


- 当社モビリティ事業部の開発部長がゲーム業界の目線からSDVについて多数講演。



ソフトウェア・ディファインド・
ビークル・サミット 2026

EdgeTech+
2025



“くるまからモビリティへ”の技術展 2025
KuruMobi Tech Expo - from Cars to Mobility

モビリティ(自動車/バイク向け)事業の成長戦略

■ 音声製品

・「CRI ADX Automotive(略称: ADXAT)」

情報提示音やETC音声など車室内外のさまざまな音を制御する車載サウンドソリューション。

・「CRI SOLIDAS」

1チップ化による小型化/コストダウン/大幅な電力削減を実現するデジタル技術のみの音響システム。

■ グラフィック製品

・「CRI Glassco」

車載メーターのデザイン制作から実装までを簡単に行うことができる車載メーターグラフィックソリューション。

■ その他

SDV関連やM&A、受託業務による拡大を想定。

2030年度までに

売上高**40**億円

音声製品
ADXAT/
SOLIDAS

その他

グラフィック製品
Glassco

2025年度

売上高**6**億円

ADX
AT

Glass
co

その他

4. 株主還元方針

4. 株主還元方針

当社は、**事業拡大と企業価値の向上**が株主の皆様に対する最大の利益還元につながると考えております。

配当につきましては、成長投資と株主還元のバランスを総合的に勘案の上、**連結配当性向30%を目安**に決定いたします。

なお、剰余金の配当を行う場合、中間配当および期末配当の**年2回**を基本的な方針としております。

	2024年 9月期	2025年 9月期	2026年 9月期 (予想)
合計	20円	25円	27円
中間配当*			13円
期末配当	20円	25円	14円
配当性向	34.3%	31.1%	30.5%

* 2026年9月期より配当方針を変更し、中間配当を実施しました。

●中期経営計画（2025年11月発表）

[https://www.cri-mw.co.jp/ir/management/mid to long term/](https://www.cri-mw.co.jp/ir/management/mid_to_long_term/)



●よくあるご質問（2026年8月に更新）

※今後四半期に1度最新情報に更新予定

<https://www.cri-mw.co.jp/ir/faq/>



本資料の取り扱いについて

- 本資料に掲載している情報は、株式会社CRI・ミドルウェア（以下、当社）グループの経営指標等の提供を目的としており、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。実際に投資を行う際は、本資料の情報に全面的に依拠して投資判断を下すことはお控えいただき、投資に関するご決定はご自身のご判断で行うようお願いいたします。
- 本資料に含まれる将来の見通しに関する記述等は、現時点における情報に基づき判断したものであり、経済動向及び市場環境や当社の関連する業界動向、その他内部・外部要因等により変動することがあります。従いまして、実際の業績が本資料に記載されている将来の見通しに関する記述等と異なるリスクや不確実性等がありますことを、予めご了承ください。